

学力向上に効果のある取組事例

豊後大野市立百枝小学校

小学校教科担任制の推進

取組の具体①

- 教科担任制により、学習規律を徹底し、指導の一貫性をもたせることができる。
- 複数の先生が授業に関わることで、児童の実態把握が多面的にでき、児童の学習理解を助けることができる。
- 複数体制で授業をすることにより、児童の困りに寄り添った学習支援を行うことができる。
- 複数学年で教科指導をするので、教科の系統性をとらえて、指導に生かすことができる。
- 教材研究・授業準備の時間を確保することにより、ICT等も活用した、わかりやすく充実した授業づくりに努めることができ、子どもの意欲向上につながる。
- 学びのふり返しを行い、身につけた力や友だちから学んだことをまとめさせている。
- 児童が学習内容を十分理解できるよう、授業中の練習問題や、宿題内容を工夫したり、誤答問題のやり直しを徹底したりすることで学習内容の定着を図る。
- 考える力、表現する力を育てるため、話し合いの場の工夫を研修で共通理解し、ペアで話す形態を取り入れたり、全体交流で自分の考えを発表する場を設定したりする。
- 自主学習の取組では、担任や教科担任の励ましやノートへのコメント記入、ノートの掲示により、一人一人の頑張りを認める。児童の学習意欲が高まり、学びに向かう力となっている。
- 教科担任と学級担任とで、定期的の実態交流を行い、学力向上に向けた情報交換と共通理解を図る。

【教科担任による指導の一貫性】

* 教科担任による授業



* ICTを活用した授業



* 学習の振り返り

ふりかえり

A できた

わかった

B ともだちのかんがえ

よかった

C あたらしくなった

D 知っていることをつかっ

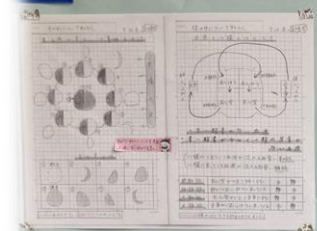
て、かんがえた

E もっとやってみたい

F ふりかえり

* 自主学習ノートの掲示

賞



ツツ努力賞